

令和6年度第2回地域家庭教育推進県中ブロック会議

- 日 時
令和7年1月23日(木) 13:30～16:30
- 会 場
郡山合同庁舎仮設庁舎 第1会議室

福島県教育委員会では、「本県の家庭教育推進上の大きな課題である『親の学び』を支援する」ことを目的として、「地域でつながる家庭教育応援事業」を実施している。

「地域家庭教育推進ブロック会議（各地区年2回）」での協議を踏まえて、大きく2つの事業を実施している。

1つ目に「家庭教育応援プロジェクト」を位置付け、「親子の学び応援講座」「家庭教育応援企業推進活動」を実施している。

2つ目として「家庭教育応援リーダー育成事業」を位置付け、「家庭教育支援チームスキルアップ研修」「家庭教育支援者地区別研修」「福島県家庭教育支援チーム」により全県及び各域内の家庭教育支援者の実践力向上を図っている。

地域家庭教育推進県中ブロック会議は、域内の家庭教育の現状を把握し課題を整理することで、各地区PTA連合会、地域代表、企業代表等と連携しながら、各家庭の実践へとつなげることを目的としている。家庭教育に関わる様々な見識を持っている「推進委員」による協議を通して、学校・家庭・地域が連携し、家庭教育の推進、子どもたちの生活習慣の改善、課題解決に向けての実践的な活動がなされるよう協議している。

【出席者】

- 県中ブロック会議 アドバイザー
- 家庭教育推進アドバイザー
- 須賀川市家庭教育インストラクター
- 郡山青年会議所理事 青少年育成委員会委員長
- 家庭教育支援チーム kokoyori 代表
- 郡山市PTA連合会副会長（郡山市立熱海中学校PTA会長）
- 田村地方PTA連合会会長（田村市立滝根小学校PTA会長）

□ 日 程

| 時 間 | 内 容 | |
|--------|---------|--|
| 13:30～ | 開 会 行 事 | ○ 主催者あいさつ ○ 日程説明・諸連絡 |
| 13:35～ | 事 業 報 告 | ○ 県中教育事務所今年度の家庭教育に関する事業報告 |
| 14:00～ | 協 議 | ○ 「課題解決に向けた実践活動について」 ～県中ブロック会議が「つなげる つながって」できそうなこと～ |
| 16:25～ | 閉 会 行 事 | ○ 御礼・諸連絡 |

事業報告

1 事業報告

- (1) 令和6年 6月13日(木) 第1回地域家庭教育推進県中ブロック会議
- (2) 令和6年11月30日(土) 県中域内家庭教育支援者研修会
「つながる つなげる コミュニケーション」
- (3) 令和6年12月11日(水) 親子の学び応援講座 「メディアが健康に与える影響」
天栄村立天栄中学校
- (4) 令和6年12月18日(水) 福島県家庭教育支援チームスキルアップ研修会
- (5) 令和7年 1月23日(木) 第2回地域家庭教育推進県中ブロック会議

2 その他

- (1) 家庭教育応援企業
 - ① 県中登録企業総数 255企業(令和6年12月末現在)
- (2) 家庭教育支援チーム
 - ① 登録数 30チーム
 - ② 県中域内登録 7チーム(2チーム新規登録)
 - 家庭教育インストラクター「県中さざなみの会」(郡山市) 新
 - CAPこおりやま(郡山市) 新

協議 「課題解決に向けた実践活動について」

～県中ブロック会議が「つなげる つながって」できそうなこと～

次年度に具体的な実践活動を実施するための議論を行った。まず、各委員の今年度の取組について話し合うことで現状の認識を共有した。その後、次年度取り組みたい活動についてグループごとに1つずつ考え、全体で共有したところ、提案内容に共通点を見出すことができた。協議するだけで終わらず、次年度、実際の活動につなげるという展望があることで、より充実した会議とすることができた。

OAグループの案

私たちブロック会議委員、応援企業、支援チーム、PTA連合会などが互いに共有できる仕組みを考えたい。諸団体の活動を、即時に共有できる仕組みを外部のインスタグラムやフェイスブックを使って情報共有している。そのような仕組みを県中ブロック会議が立ち上げる。

活動の記録、支援、広報、支援の要請などを、相互に情報共有することで、私たちの次の世代、若い人などとのつながりを持つきっかけとなるのではないかと。「子供たちの健やかな未来のために」「幸せな未来のために」というネーミングで実践してはどうかと考えた。

質問：SNSは悪い人が入ってくる可能性もあると思うのですがどうでしょうか。

回答：事務局で判断し止めるようにしたい。そういう機能もある。仕組みのハードルを上げると良い情報や新しい団体も入りづらい。



OBグループの案

ブロック会議にはいろいろな団体の方が所属しており家庭教育推進のために様々な活動をしているが、互いの活動は具体的には全然分かっていない。まずはブロック会議委員同士が互いの活動をよく理解して、その団体や地域の活動をよく知る。他団体の活動に参加したり出前イベントを行ったりすることで、よりつながりが広がる。そうすることで、保護者のニーズを聞き取ったり、各学校やPTAと連携したり、ブロック会議自体の力を強くしたりすることにもなる。そして、それらの取組を発信していくと良いと思う。

意見：つながるために理解を深め、発信していくというところでは、Aグループと同じ意見です。発信の手法とか参加の手法が若干違うという感じです。

○総括 県中ブロック会議アドバイザー 小林 徹 氏

一回目の会議では、委員の方に家庭教育とは何でしょうと聞き、それぞれ自分が、親や祖父母から受けてきた教育や自分が子供にしている家族づくりのイメージがあり、考え方が違うということを確認した。その後の協議では、「コミュニケーション、つながる、つなげる」という言葉が浮かんできた。

「つながる、つなげる」というワードは今の世の中で困っていることではないか。私たちはつながりにくい人種、社会になっているのではないか。

11月の家庭教育支援者研修会の講話では、福島県の施策を見直したところ、今の教育力が低下している家庭に教育の立場としては直接的に働きかけられない。福祉の立場ならできるが、教育は、こちらに家庭が来るように興味を持ってもらわないと支援できない。そのために企業、家庭教育支援チームと連携して支援しようと取り組んでいるが直接家庭に働きかけている事業はないという話をした。

その上で今日のブロック会議では、私たち会議のメンバーがどのような役割を求められるのか考えながら協議した。

まずは、子どもの興味をひく活動であり、かつ親にとっては安全で経済的な負担もない場合だと子どもの参加が促せるのかもしれない。青年会議所の取組では、60人定員のキャンプに200人の応募があった。次のイベントも、多くの企業や団体が子どもの「明日やりたいこと」を見つけてもらおうという、子どもの心を捉えたイベントが大盛況だった。

そのような力を持った方々がブロック会議には集っており、魅力のあるイベントを各地域で行っている。私たちが互いにもっと知り合って、人と活動を理解する。自分の地域のPTAに招待して簡単なイベントをしてみようかという発想につながっていく。この方を呼んだら、子どもたちが喜ぶというのがあれば、そういうことを思いつく。私たちが知り合うこと、つながること。それが、ここにはいない誰かとまたつながることにつながっていくのではないか。つながったかなと思うと意外とつながっていなかったということもあるが、それでも諦めないで行動していけば、小さな輪がだんだん大きく違った輪とつながりながら広がっていくのではと思う。私は子どもの頃から地域で関わってきたり作ってきたりしたことをまたその地域でできるといいと思っている。生まれた町の子供会活動や中学校の同窓会活動などと今でもつながっている。そういうことが自分の周りを探すとたくさんある。それをすごいことだと振り返るのも大事なことだと思う。つながっているということを改めて自覚し自慢できるような地域にしていきたい。

来年度もブロック会議を次の第一歩、小さな一歩、半歩でもいいので、進めたい。

